

こころのそこからありがとう

刈井華望（ふちい かのん）

七月二十六日、夏休み。今日、わたしは、二年生になってから、クラスみんなで一生けんめいそだてている、きゅうりをしゅうかくしに行きました。どうしても、おとうとにたべさせなかったからです。

きよ年の五月十八日に、おとうとが生まれて、四人家ぞくになりました。一さいになって、おとうとが立てるようになったので、みんなで、公園であそんだりします。おとうととあそぶのは、とてもたのしいです。

でも、わたしには、しんばいなことがあります。それは、おとうとに、おもしろくもつアレルギーがあるということです。だから、おとうとは、わたしと同じものを、まだ一回もたべたことがありません。

学校で、クラスみんなでそだてたきゅうりは、あさづけけにしたり、みそをつけたりしてたべました。とてもおいしかったです。夏休みに、きゅうりがなっていたら、とってたべてもいいよ。と先生が言っていたので、わたしは、きゅうりをとりに行きました。どうしても、おとうとといっしょに、大切にそだててきたきゅうりをたべたかったです。

はたけのきゅうりは、とても大きくそだっていました。わたしは、その中で、一ばん大きくておいしそうなきゅうりをえらびました。

家にかえり、きゅうりをひやし、おとうとといっしょに、な

にもつけずに、丸かじりしました。お店で買ったきゅうりとはちがい、とってもあまくて、みずみずしかったです。おとうとは、ニコニコわらいながら、モグモグしていました。いつもなら、ポイってなげるのに、わたしのとってきたきゅうりは、しっかりと手でにぎりしめ、ずつとずつと口の中でモグモグしていました。そして、ゴクつとのんだしゅん間、わたしが今まで見たこともないえ顔で

「うんま。」

って言いました。おとうさんも、おかあさんも、となりできゅうりをたべながら、なっていました。

今日は、家ぞく四人が、同じものを、同じたべ方でたべた記憶ねん日です。おいしいきゅうりをそだててくれたクラスのみんなに、ありがとうを言いたいです。そして、いつもえ顔で、わたしたちの家ぞくをしあわせな気もちにしてくれるおとうとに、ありがとうを言いたいです。

「ありがとう。」

ありがとうという言ばは、かんとんに言えそうで、じつはなかなか言えない言ばだと思います。

しかし、ありがとうは人をうれしくしたり、またえ顔に出きる言ばだと、わたしは思うので、これから先の人生、たくさんの人に、たくさんありがとうをつたえていきたいと思えます。